

総合教育研究センター
学生向け情報誌

クレードル 第9号

CRADLE

Center for Research And Development of Liberal arts Education
9th issue

ユニークな海外体験 オーストラリアで英語と森に生きよう

数ある天理大学の海外留学・研修プログラムの中でもとくにユニークな、英語を勉強してその後で森のボランティア活動に参加するプログラム。

現在、今年の参加者を募集中ですが、まず昨年度(2016年2月)の活動の様子を参加した学生たちの感想を通じて紹介します。(2ページに続く)



こころの健康法 6

「からだの感覚」を大切にしましょう！

わたしたちは毎日いろいろなことに遭遇しながら生きています。そんな日々の中で、「これどうしたらいいんだろう?」とか、「これ一体どっちがいいんだろう?」と迷ってしまうことってないでしょうか? (仲) (7ページに続く)



震災と学校

大地震が発生したとき、多くの人は「避難所」に身を寄せます。そのとき、地域の学校の多くが「避難所」とされます。(山本) (7ページに続く)

第16回国際参加プロジェクト (ネパール) 報告

2015年度からネパールでの活動を開始している「国際参加プロジェクト」ではメンバー12名が2016年2月14日~26日までネパールの地震被災地で活動しました。(関本)。(6ページに続く)



Welcome! to G Square
(ジースクエアにようこそ)

研究棟1階にある、学生の憩いの場G Square(ジースクエア)。窓があるドアはロック不要。誰でも歓迎! パソコンを使いたい人、おやつやお昼を食べたい人、勉強をしたい人、寝たい(笑)人に最適! 「誰でも本棚」という持ち帰り自由な本棚も完備。(8ページに続く)

オーストラリア短期研修

英語と森に生きてきましたー学生が語る研修の意味

(構成 総合教育研究センター 伊藤 義之)

YOUはどうして研修へ?



Yuji

英語に触れる生活をしたかったことと、海外に行くことによって日本とは異なる文化を学びたいと思ったこと、自分の拙い英語で現地の人とどの程度コミュニケーションを取れるか試してみたいと思ったことからです。



Meien

2014、2015年に川上村で行った「森に生きる」に参加して、森の知識が増えたことと、みんなとの共同生活が楽しかったからです。神秘的な南半球に好奇心があったのとオーストラリアの森について勉強しながら、当地住民の文化などにも染み渡りたかったからです。



Hatsue

いま海外に出ないと一生出ないと思ったから。



Kengo

海外の土地柄や街並みを実際に見てみたかったから。



Yoshiki

友達がこのプログラムに応募するのについて行き、説明を聞いて面白そうだと思い、異文化に触れてみたいと思い参加した。



Gori

伊藤先生や杉本さんに誘われたから。一度オーストラリアに行ったことがあり、久しぶりに行ってみたいと思ったから。



Teru

現役時代海外工場の立ち上げや改善活動に携わった経験上、世界各地で100以上の都市に滞在した経験がありますが、オーストラリア大陸には訪問の経験がなく、大学の日野教授からのお勧めもあり、また単位もいただけるとのことで参加させていただくことになりました。

オーストラリア短期研修に参加した人たち

1. 学生：7名(学年は当時)

Hatsue	山田 初恵	文学部歴史文化学科(考古学・民俗学専攻)	4年	Aコース(英語+森)
Gori	國府 和輝	体育学部体育学科	4年	Aコース(英語+森)
Yuji	森本 祐司	文学部国文学国語学科	3年	Aコース(英語+森)
Yoshiki	幸田 佳樹	体育学部体育学科	4年	Bコース(森のみ)
Kengo	上村 健吾	文学部歴史文化学科(考古学・民俗学専攻)	4年	Bコース(森のみ)
Teru	山崎 輝久	国際学部外国語学科(韓国・朝鮮語専攻)	1年	Bコース(森のみ)
Meien	趙 明圓	国際学部外国語学科(日本語専攻)	4年	Bコース(森のみ)

2. 引率教員：前半 櫛本崇恵(言語教育研究センター) 後半 伊藤義之(総合教育研究センター)

3. 特別参加：Zue 長沢一恵(天理大学非常勤講師：「基礎からわかる近代史」「基礎ゼミナール」担当)

オーストラリアはどんなところ？

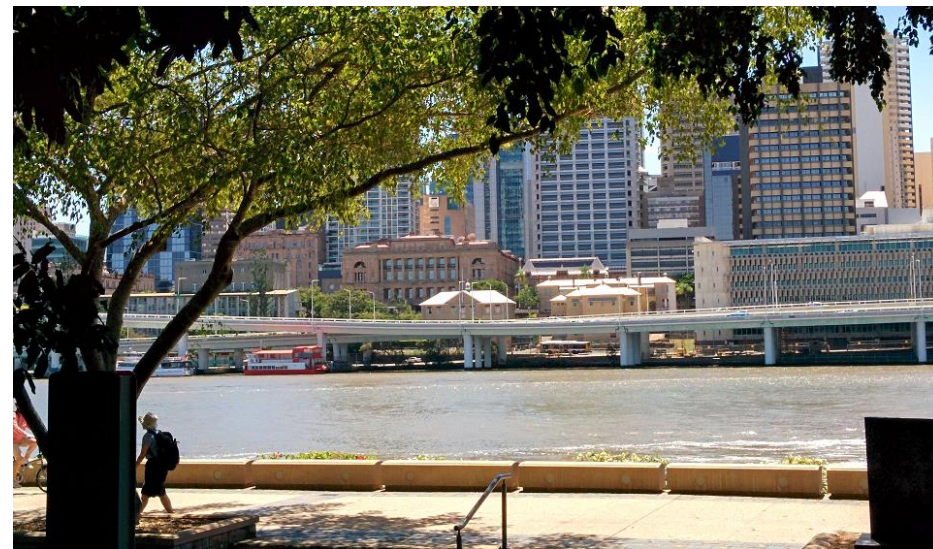
Yoshiki

日本と比べて土地が広く庭もあり広いし、車道も広く全体的に広大な感じでした。今回お世話になったオーストラリア人は陽気で気さくな人たちがばかりで接していて楽しかったです。言葉の壁はありましたが、それを感じさせない明るさがあり、いい人達ばかりでした。



Yuji

ブリスベンはとにかくよい天気でした。日中の気温は 30 度以上が当たり前でしたが、日本と違って湿度がなくまた風も吹いており非常に心地よい気候でした。食事においては、日本に軍配が上がりました。やはり味付けが大味な気がしました。またランチ代が日本円で 1000 円以上することにもびっくりしました。なぜならスーパーで買い物した際お肉や果物などの生鮮食品は日本に比べ安いからです。



Meien

今回の旅行は短かったですが、良い印象が結構残っています。自然に溢れて景色が綺麗だし、自然はそのまま保護され、人間と自然の緊密な関係を感じました。当地の人間の生活スタイル、自由な生活空間、日曜日は午後 5 時くらいに店舗はほとんど閉まる、ユーモラスな話し方、綺麗な海、乳製品は安すぎ（特にミルク）など、でもレストランのサービスはあまり良くなかったです。



Hatsue

お風呂をできるだけ短くするように言われ、しょうがないけど日本とは違う。トイレが衝撃的。流すボタンが大小で分かれている。シャワーが早く、洗ってないとしか思えない。水が高い、飲み物が高い、果物はあり得ないくらい安い。バス社会にびっくり。お店の閉店が早すぎる。平日でも 6 時に閉まってしまっていてびっくり。スーパーでアルコールが買えないのもびっくり。



Zue (特別参加 長沢先生)

コンドミニアムの共同生活は初めての体験でしたが、現地で暮らすような感覚での生活を体験することができて、とても快適でした。朝食と夕食は共同炊事で、スーパーマーケットでの買い物を体験しました。自分たちで買い物をしたため、オーストラリアの物価や食生活の様子を楽しみながら知ることができました。夕食はカレー、パスタ、オムライス、オーギービーフのステーキに初めてのカンガルー肉のステーキなど毎日多彩で、トロピカルジュースやフレッシュミルク、ビールやワインも含めて、オーストラリアの食材をたっぷり堪能することができました。スーパーマーケットや商店での買い物のほか、自分で切符を買って電車に乗って移動したり、街中心部にある博物館など公共施設を訪れたり、現地生活に必要な最低限のノウハウをひと通り体験させていただくことができましたので、これで次からも留学や海外旅行はばっちりですね！



オーストラリアの大学やホームステイの様子は？



Gori

大学生活は日本人やミャンマー、中国、韓国といったアジア系の人が多く最初のスピーキングテストで力量がほぼ同じ子がいるクラスに入るので楽しんで英語を学ぶことができた。オーストラリアは移民の国でいろんな国から来た人がいるのでホームステイ先によって生活はさまざまです。自分が行った先は自分以外にもフランスと中国から来ている子がいて、オーストラリア以外にも文化交流ができました。



Hatsue

朝早く授業が終わるのがすごく楽でした。朝は 8:15 始まりで 12:45 に終わるので人間らしい生活が送れます。でも、もうちょっと勉強しておけば良かった、英語も向こうの国のことも、と思いました。



Yuji

ホームステイ先の生活はとにかく波瀾万丈でした。もう一人の日本人のホームステイの子が家族と大喧嘩したり、学校から帰る方法を教えてくれなかったりといろいろ自由なホームステイ先でした。大学での生活は非常に楽しく貴重な時間でした。生の英語を聞けることがこんなにもワクワクするものなんだと気付かされもっともっと英語を学びたいと思いました。一週間じゃ少なすぎる、一年は英語を学びたいという意欲が生まれました。

森での活動やレンジャーのことを教えてください



Kengo

絵に描いたような理想のレンジャーしかいなかった。性別問わず爬虫類を素手で持つところがワイルドでカッコいい。小学 5 年生までボーイスカウトで活動していたため、植林方法などに懐かしさを覚えた。消火器で水やりをしたのは独自のやり方と思った。



Teru

自然環境保護に関する取り組みは素晴らしいものがあります。日本なら駐車場横には露店があり、広告も目立ちますが、非常にさっぱりしていて一切なく、感じが良かったし、自然保護に対する考えがしっかりしている。また、雨水の活用や渇水期の貯水池の準備等しっかり水不足に構えていた感があった。外来植物のランタナの駆除ができたのは幾ばくかの貢献ができたと思うし、達成感もあった。



Yoshiki

ランタナの駆除をしてみて、植物にとげがあったりダニに刺される可能性があったりと、思っていた以上に大変な作業でした。しかし、参加者とレンジャーの協力で作業ができ、終えたときの達成感も大きかったです。レンジャーの人たちはフレンドリーで優しく、言葉の壁が気にならないくらい楽しいコミュニケーションを取ることができました。

陽気なレンジャーさんたち



とくに印象に残ったことはなんですか？

Meien

自然に溢れた景色や住民の生活スタイルや交通・・・特に国立公園にある池は私が生まれた町にあった池の 20 年前の姿とよく似ている。しかし、その池は汚染され、今はもうない。懐かしい感じや自然の大切さを感じとった。



Yuji

やはり大学で一週間英語を学んだことです。凄くよい経験だったし、中国や韓国の学生とも交流ができて、文化の違いを知ることができました。ただ、よい経験だった分英語を事前にもっと勉強していればよかったと痛感しました。相手の言っていることが分かるのに単語や文法が分からないためうまく返すことができないもどかしさが辛かったです。



Gori

オーストラリアの空がとても綺麗だったこと。いつ写真を撮っても綺麗な青空が映り、最高の思い出になった。伊藤先生に案内していただいた丘の上からの景色が綺麗で一番感動しました。



Zue

旅行期間中には移動中のワゴン車の中や食後のくつろぎタイム、バーベキューパーティー、森林活動の作業中などいろいろな場で、参加した学生さん一人ひとりの卒業後の仕事や生活のことや、将来の目標や人生観などについて聞かせていただいたことが一番心に残っています。3回生・4回生の方が多かったので、卒業後の就職や生活が決まっていたり、大学生活を過ごす中ですでに将来携わりたい仕事などについて自分のビジョンをしっかりと築き上げていた人もあったと思いますし、自分の生き方を模索中の人もあったと思いますが、新たにオーストラリアの人々の生活や社会風土に触れることによって、自分では思ってもいなかったような新たな視点がひらけたり今まで感じたことがないフレッシュな感覚を得て、もう一度自分の将来のビジョンを捉え直すとても貴重な体験になったと語ってくれた人もいました。数週間の短い滞在ではありますが、新鮮な刺激を受けてしっかりと自分の未来につなげていく瑞々しい感性と力強さ、そしてみんなの輝かしい表情は、今回の研修旅行に参加させていただいて最も印象的なものとなりました。



最後に、これから参加を考えている人へのメッセージを

Yoshiki

学生の今のうちに異文化に触れ何かを感じることはとても良い経験になると思います。何を感じるかは人それぞれですが、必ず今の自分では気づけないことを発見できると思いますので是非参加することをお勧めします。



Gori

まだ海外に行ったことがない人はぜひ参加すべきです。英語を学んでいるとき自分が常に考えていた「なぜ外国語を学ぶのか」の意味が分かります。意味が分かるというより必要性を感じます。価値観や文化が違う人と話せることはとても素晴らしいことですし、参加すればもきっともって話しくなります。あとお肉が好きな人もぜひ（笑）



Hatsue

現地の生活に反感を覚えずに、こういうものだと思ったら楽にたのしく生活ができます。異文化を受け入れること。学校の友達から聞く不満は文化の違いに根ざすところが多かったので、住まわせてもらっている感謝の気持ちを持った方がいいでしょう。自分の方が異文化なのだという自覚を持つこと。よくしてくれようとしているということの先に考えるべきで、そういう心を持って出かけた方が楽です。



・・・ありがとうございました。

第 16 回「国際参加プロジェクト（ネパール）」

地震被災地の小学校での教育支援／天理教ネパール教友との“ひのきしん”

（1 ページからの続き）



ネパール大地震被災地の 6 つの小学校で、ネパール語による紙芝居、ペープサートを使って教育支援活動をおこなった（2016 年 2 月）

現地では、6 校の小学校で教育支援活動として、ネパール語での紙芝居、ペープサートを通した、日本語・日本文化紹介、心のケア、道徳教育をテーマとした教育支援活動、また天理教ネパール連絡所を中心としてネパール人信者のみなさんが行っている「おたすけ隊」活動に参加し、避難所での炊き出し活動を行いました。

ネパールでは 2015 年春に大地震が発生し、約 80 万世帯が全壊・半壊で家を失い、トタン屋根の小屋やテントでの避難生活が既に 1 年を迎えようとしています。政治状況が不安定なネパールでは 2015 年 9 月によりやく新憲法が定まり、復興計画関連の法案や行政区画に関する

ルールの整備がこれから行われる状況にあり、被災者の復興支援は長期的なものになりそうです。

2016 年度第 17 回のプロジェクトは、6 月 7 日（火）に募集説明会兼活動報告会、6 月 9 日（木）に第 2 回募集説明会を開催し、書類選考と面接選考を経て、メンバーが決まります。

2016 年度、新メンバーでの活動は、秋学期の 9 月から毎週火曜日の午後 4 時半から午後 7 時半まで、ネパール人留学生からネパール語の指導を受けながら、現地の子どものたちの笑顔のため、教育活動を準備し、2017 年 2 月に現地を訪問する予定です。



左：コカナでの炊き出し（ネパール餃子・モモ）、中央：バクタプールでの炊き出し（ネパールカレー）、右：学生たちの活動を見ている子どもたち

（総合教育研究センター 関本 克良）

こころの健康法 6 -

「からだの感覚」を大切にしましょう！

(1ページからの続き)

小さなことですが、今日着ていく服一つを選ぶにしても、考え出したら迷ってしまって、結局うまく決まらなくなってしまうことって、ありますよね。

筆者もかなり優柔不断なタイプで、ファーストフード店などではすぐに決められずにアタフタしてしまって、その挙句にそんなに食べたくなかったものを頼んでしまい、あとで激しく後悔…、ということがすごくよくあります。

では、こういう日々の細々とした悩ましい選択の迷いをうまく切り抜けていくためのコツのようなものって、ないのでしょうか？

実はそのコツの一つが「自分のからだの直感に従う」ということなのです。なにごとにも理詰めだけで計算して考えていくと、なかなかうまく答えが出せないことが多いのですが、自分のからだの感覚をなぞってみて、「なんとなくなんだけど、今の自分にはこっちがいいような気がする」という、その感じに素直に従っていくと、よい結果につながるものが人間どうも多いようなのです。日本には古くから「虫の知らせ」とか「虫が好かない」、「腹の虫がおさまらない」というような表現があります。わたしたちのからだの中には、もしかしたら脳味噌よりもはるかに感度がよくて強力な、非常にすぐれた昆虫的な高性能レーダーが備わっている可能性があるのかもしれないですね。実際に武道などの世界でも、頭ではない、「肚(はら)」というものが非常に重視されています。

みなさんも日々迷ったら、ちょっと一呼吸をおいて、自分のからだの奥から聴こえてくる「静かな感覚の声」に耳を澄ませてみてください。100%ではないですが、案外うまくいくことが多いと思いますよ。

Dont think. Feel !

(総合教育研究センター教職課程 仲 淳)



震災と学校

(1ページからの続き)

学校は、たくさんの人々が避難できる施設があるばかりではなく、地域の人々にとっての「学びの場所」として身近であることが理由として挙げられます。

ただ、「避難所」となったそのときから、学校は「教育」の場であると同時に、「生活」の場となっていきます。「教育」と「生活」が同じ場所でおこなわれるということは、ときに両者が対立する場面も生まれます。学校が「教育」の場である以上、子どもたちへの教育再開が考えられなければなりません。それでも、学校が地域の人々の拠り所であるならば、人々の「生活」を支える役割も果たす必要があるだろうと思います。

こうした難しい課題のなか、東日本大震災の経験を踏まえ、以下のような課題が挙げられています。①事前の受け入れ体制：「事前の食料品の備蓄、学校内に少なくとも3日分の食料と水の確保は必要」。②「避難所の運営体制」の想定：「教職員」による運営から「住民組織」への移行（天笠茂ほか編『東日本大震災と学校』、2013年）など。

今回の熊本地震においても、今後、様々な問題が出てくるだろうと思いますが、私たちには阪神大震災・東日本大震災を経て、多くの「教訓」が蓄積されています。被災した方々への関心と出来る範囲での支援を継続するとともに、学校現場での「日々の備え」について考えておくことが大切かなと思います。

(総合教育研究センター教職課程 山本 和行)

Welcome! to *G Square*

(ジースクエアによこそ)



1

G Square は学生のたまり場。平日の昼間はいつでも居場所として使ってください。場所は研究棟 1 階、西側（2号棟側）の真ん中くらいにあります。珍しくドアに窓がついていて、G Square という看板があります（写真1）。



2

ドアを開けると自由に使える机と椅子があります（写真2）。誰もいなくても鍵は開いているので、いつでも勝手に使ってください。分からないことがあればドアを開けた左側に事務助手のお姉さんがいるので、何でも聞いてください（写真3）。机の上にあるお菓子はどうぞ自由に食べてください。誰かのお土産が多いので、外国産の珍しいお菓子も食べられます（写真4）。



4



3



6



5

G Square のドアを開け、左奥に入っていくとソファがあり、そこではお昼ご飯を食べたり、寝たりすることも自由です（写真5）。その奥には学生専用のパソコンが3台ならんでいて、使いたい人は自由に使うことができます。Zドライブにもつながっていますし、1、2枚程度でしたらプリントアウトもOKです（写真6）。



8



7

G Square のドアを入れて右側には「誰でも本棚」があり、手続き無しで持ち出して良い本がならんでいます。また、裏紙を使ったメモ用紙も用意していますのでご自由にお使いください（写真7、8）。